

平成23年2月25日
独立行政法人森林総合研究所
林木育種センター東北育種場

スギカミキリ抵抗性品種を開発しました — スギ木材の商品価値低下をストップ —

1 概要

独立行政法人森林総合研究所林木育種センター東北育種場（以下「東北育種場」という）では、スギ木材の商品価値を著しく低下させる害虫「スギカミキリ」への対策として、関係機関と連携してスギカミキリ抵抗性品種の開発に取り組んできました。

平成22年度は、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、新潟県及び東北森林管理局、関東森林管理局と連携してスギカミキリ抵抗性品種を新たに11品種開発し、これにより東北地方で開発した品種数は31品種となりました。

開発した品種は、東北地方各地におけるスギ植林の原種として、問題となっているスギ木材の商品価値低下を食い止めることに役立てていきます。

2 開発品種の特徴と開発までの経緯

1) 開発品種の特徴（品種名及び選抜地）

樹種	選抜地	品 種 名
スギ	岩手県	スギカミキリ抵抗性 岩手県 31号
	宮城県	スギカミキリ抵抗性 宮城県 2号
	宮城県	スギカミキリ抵抗性 宮城県 16号
	宮城県	スギカミキリ抵抗性 青森営 14号
	宮城県	スギカミキリ抵抗性 青森営 49号
	秋田県	スギカミキリ抵抗性 秋田県 37号
	秋田県	スギカミキリ抵抗性 秋田県 47号
	山形県	スギカミキリ抵抗性 山形県 23号
	新潟県	スギカミキリ抵抗性 新潟県 14号
	新潟県	スギカミキリ抵抗性 新潟県 42号
	新潟県	スギカミキリ抵抗性 前橋営 9号

2) 開発までの経緯

①抵抗性候補木の選抜

被害を受けたスギ造林地から、健全で成長の良い個体を候補木として選抜しました。

②人工接種による検定

候補木原木から枝を採取してさし木クローンを増殖・育成し、胸高直径が4cm以上（およそ5年生以上）に達した候補木にスギカミキリの卵を3箇所（1箇所

当たり卵3個)接種し、孵化した幼虫が材部に侵入し食害する割合を求め、基準を越えたものを合格木としました。

③優良品種としての評価

平成23年1月19日の独立行政法人森林総合研究所林木育種センター優良品種評価委員会でスギカミキリ抵抗性について評価しました。

平成23年2月8日に独立行政法人森林総合研究所林木育種センターがスギカミキリ抵抗性品種として認定しました。

3 今後の取り組み

東北育種場で育成している抵抗性候補木について、今後も検定を進めていきます。また、開発した品種を早く各地で植栽できるよう、県へ原種の配布を行います。

(用語解説)

スギカミキリ：幼虫がスギ、ヒノキ等の内樹皮を食害する穿孔性害虫で、1年に1回、稀に2年に1回被害が発生します。成虫は、ソメイヨシノが咲く春先に出現してすぐに交尾し、粗皮の隙間に産卵します。孵化した幼虫が穿孔して内樹皮と形成層を食害するため、木が枯れたり、材価が下がります(参考資料参照)。












傷害樹脂道：内樹皮に傷を負わせて生じる樹脂道。

採穂園：さし木苗の生産に必要な穂木を採取するために設けられた樹木園。

原種：植林用の苗木生産のための種子や穂木を増殖するための樹木園のもとになる苗木。

問い合わせ先	森林総合研究所 林木育種センター東北育種場
	担当：育種課 星、宮下久哉
	電話：019-688-4518

写真 スギカミキリ抵抗性 11品種

 <p>スギカミキリ抵抗性 岩手県 31号</p>	 <p>スギカミキリ抵抗性 宮城県 2号</p>	 <p>スギカミキリ抵抗性 宮城県 16号</p>	 <p>スギカミキリ抵抗性 青森県 14号</p>
 <p>スギカミキリ抵抗性 青森県 49号</p>	 <p>スギカミキリ抵抗性 秋田県 37号</p>	 <p>スギカミキリ抵抗性 秋田県 47号</p>	 <p>スギカミキリ抵抗性 山形県 23号</p>
 <p>スギカミキリ抵抗性 新潟県 14号</p>	 <p>スギカミキリ抵抗性 新潟県 42号</p>	 <p>スギカミキリ抵抗性 前橋営 9号</p>	

(参考資料)



(スギカミキリの成虫)



(スギカミキリの幼虫)



(人工接種後、被害調査中の供試木)



(スギカミキリ被害状況)